

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第48号 2012年冬(新年)号

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/>

発行責任者: 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 参加者増えた収穫祭



いつものようにビオトープを見下ろしながらテーブルを囲む

11月3日(祝日)、今年の収穫祭を行いました。晴天に恵まれ、大勢の参加者があり、今年も盛会でした。私共幹事の不手際のため、準備の道具が揃わないというハプニングがありました。メンバーの皆様の熱心なご協力と名戸小の思いもかけなかった応援を頂き、無事にスタートを切ることが出来ました。

次ページへつづく

### 総会のお知らせ

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の第10回総会を下記にて開催します。会員の皆様の出席をお願いします。なお、準備の都合上、本会報に同封されている出欠連絡ハガキにて出欠をご連絡ください。欠席の場合は、総会成立のために委任状部分に記載もお願いします。総会議案書は当日配布予定。会場では今年度の年会費納入も受け付けます。

記

日時 2012年1月21日(土) 午前10時～

場所 名戸ヶ谷ふるさとセンター(名戸ヶ谷小学校の南側道路に面しています。)

議題 2011年度活動報告、会計報告

2012年度活動予定、予算案

年会費を改定するために会則第10条の改訂の審議

(現行の年会費2000円、家族会員年会費3000円をともに1000円に引き下げを提案予定)

講演 議案終了後に本会佐々木光正氏による講演を行います。またすべて終了後に懇親会も行います。(会費不要)



昼には名戸小の校長先生や担任先生にお越しいただき、柏市からは担当課長にご出席を頂きました。今回初めて近くの保育園の保母さんにもおこし頂きました。今年は放射線問題があったため子供たちの参加がどうなるのかが気がかりでしたが、ふたを開けてみると大勢の子供たちがやってきてくれました。

宴たけなわとなった頃、今回特別参加をお願いした千代田町の小林さんの手品芸のご披露があり一段と盛り上がりました。担当幹事として、収穫祭の準備や調理にご協力いただいたメンバーの皆様にあつく御礼申し上げます。（佐々木



光正)

小林さんの手品に子どもたちも大喜び

写真上  
食膳の準備

写真右  
言わずと知れた  
餅つき

写真下  
餅米ふかし  
このカマドは名戸ヶ谷小学校からの借用です。持参の名戸ヶ谷小学校長に感謝



写真上・下  
食卓風景  
いろいろ話がはずみます。



# ビオトープ水田収穫量の推移実績

影山賢三氏によるデータを元にしたもの

年度	もち米			うるち米			備考
	玄米収量 Kg	面積 坪	反収 Kg/反	玄米収量 Kg	面積 坪	反収 Kg/反	
2003(H15)年	149	165	271	186	238	234	
2004(H16)年	193	165	351	296	268	331	
2005(H17)年	173	165	315	228	268	255	
2006(H18)年	150	165	272	231	238	291	不水田：分けつ肥料窒素分 3Kg/反
2007(H19)年	48	165	87	141	238	178	両水田とも雑草繁茂で不作
2008(H20)年	153	127	361	306	269	341	全水田秋鶏糞N分1.5Kg, 元肥 3.5Kg, 穂肥1Kg+ミネラル
2009(H21)年	134	127	316	319	269	356	7月の天候不順のため前年収量 を下回る。
2010(H22)年	106	127	250	300	269	335	分けつ、稲の躯体の生育は順 調だったが実入りが不十分で 収量減少
2011(H23)年	79 93	127	187	292	269	326	倒伏防止と結実をよくするた めに元肥を減らし穂肥を減ら した。もちは大幅減収

## コメにまつわる作業風景

コメを収穫して、それを精米して、皆さんに届けるまでには、大変な作業があるものです。

写真は下が米ぬか散布。右上は稲の乾燥が



終わったあとのホダパイプ解体。右下は収穫したコメを計量して袋詰め。いろいろなことがあるものです。



# 大井北西部の ニリンソウとタニギキョウ

旧沼南町の大井に行かれたことがありますか？ 手賀沼近くで大津川を東側に渡ると、そこが大井です。大井はとても広い地域ですが、その中で手賀沼と大津川に最も近い一画、大井北西部が今日の舞台です。この一帯には今も里山風景が残っています。大きな林こそありませんが、農家やお寺の裏山、或いは、谷津の斜面には昔の面影を残す小さな樹林が残っています。そうした場所に昔からの貴重な植物が今も見られます。



大津川越しに見る大井北西部

その大井北西部で特に注目される植物が、ニリンソウとタニギキョウです。いずれも千葉県絶滅危惧種に指定されていますが、大井地区ではニリンソウの自生地が2箇所、タニギキョウは5箇所もあります。この二つの植物は共通する環境に生えています。谷津の斜面林の下部近くの、明るい木陰の下で、適度な湿り気がある場所、そんな環境の中で暮らしています。こうした場所では、ニリンソウやタニギキョウ以外の植物で同じような環境を好む植物が同居しています。ジロボウエンゴサクやヤマネコノメソウやウワバミソウなどです。

ニリンソウやタニギキョウが大井北西部に集中

的に残っているということは、この地区が手賀沼や大津川の湿地帯に面した涼しげな環境に恵まれていた証左だと思われます。この涼しげな環境を今も維持しているのが周りの落葉樹や竹林と恵まれた湧水です。こうした環境をこれからも保護してゆくことが必要です。

大井北西部にはニリンソウ、タニギキョウ以外にも数多くの貴重な植物が残っています。湿地に咲くミクリ、林縁草地に咲くノジトラノオ、林下に生えるキンラン



ニリンソウ



タニギキョウ



ジロボウエンゴサク



ヤマネコノメソウ



クワバミソウ



ミクリ



ナトオラノオ



キンラン

やギンランなどです。

ところで、大井北西部の貴重な草花はどれも個人の所有地に生えています。だから、自由勝手に覗き見ることが出来ません。立ち入るには持ち主の許可が必要となります。ご

希望の方は私（佐々木）までメールでご連絡くださればご案内いたします。花の見ごろは、ニリンソウとタニギキョウは4月下旬頃、ミクリは6月中旬。ノジトラノオは7月初旬です。

（文・写真：佐々木光正）



里山風景



里山の寺 福満寺

## 作業日誌から 12/17（合同）清掃と草刈り一年末の仕事納め



左：回生の里寄りの水路に放棄されたゴミ類の撤去。  
右：Bゾーンの湿原に伸びているヨシ類を刈り取る。



# 観察会報告

1)秋の観察会を10月29日(土) 10時~12時にて行った。

参加者 親子4組、個人2人 計13名。  
広報に掲載されたこともあり、年々参加者が増えている。

2)秋の生き物調査 11月2日(月)9時半~11時半にて行った。

参加者:篠崎、松清、影山、藤平。  
講評:柄澤先生より、「例年とあまり変わらず、良い状態が保たれている」とのコメントをいただいた。



親子連れで熱心に観察



収集した生きものの説明を聞く子どもたち

篠崎会長より「実施日11月遅すぎるのではないかと。トンボ類が多くみられる9月頃でどうか」とのご意見をいただいた。ほかに、「調査の予定を年間で決めておいてはどうか」「調査日の報告だけでなくほかの時期の観察報告もしたほうが良いのではないか」等の意見が出た。

(藤平三郎)

## 年末恒例のしめ縄づくり



12月(17日)合同作業日にビオトープの大掃除を終えた10時頃から木村家物置前庭で恒例の新藁を使った注連飾り作りを行いました。

今年一番の寒い日でしたが日だまりで冬の日差しを浴びて10名程の会員が参加しました。最初からスラスラできる人もお

れば、縄緬いは初めてで悪戦苦闘される人もありました。又半紙で飾りの紙垂れ(シデ)作りも行い、和気藹々の一時でした。

11時過ぎまで続き、自作の輪飾りを土産にお開きになりました。(影山)

